

令和8年 6月 5日

名古屋美容専門学校
校長 垣本 勝三 殿

令和8年度 第1回 学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価委員会
委員長 菅谷 遼将

「自己点検評価票（評価対象期間：令和7年度）」に対し、学校関係者評価委員会を実施しましたので、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 日 時 令和8年5月26日（火）9時45分～11時15分
2. 場 所 名古屋美容専門学校 3階 応接室
3. 出席者 [委員6名] 菅谷 遼将（株式会社APRE 代表）
石川 厚子（株式会社トップヘアー代表）
大薮 可澄（株式会社美容文化社代表取締役）
池内 裕史（株式会社JS コーポレーション中部支社支社長）
有賀 海空（卒業生 株式会社リジェール）
森 里依 （保護者代表）

[教職員7名] 校 長 垣本 勝三
事 務 長 梅村 浩司
教務主任 後藤 高宏
渉外主任 近藤 龍起
2学年主任 柳生 愛
1学年主任 大宮 麻理
就職担当 杉本 将志

4. 自己点検評価票（評価対象期間：令和7年度）の結果報告と評価（3段階評価）

【専修学校における学校評価 運用ガイドライン 2025 改訂版対応】

評価項目	評価	評価項目	評価
(1) 教育理念・目的・目標	3	(2) 教育課程	2.6
(3) 学生の受け入れ	2.6	(4) 教育実施組織・教員	2.4
(5) 教育環境	3	(6) 教育活動の基盤と改善	3

I 重点項目について

- ① **ブランディングの強化について**、「教育の質の向上」、「学生生活の満足度」、「将来への期待」の3点に注力されており、現状に満足せず、常に美容学校として新たな施策に挑戦されていることが社会的評価の向上に繋がっていると思います。
- ② **教育成果について**、美容師教育に特化したカリキュラムの完成年度を終えて、次へのPDCAに取り組まれており、更なる成果に向けての改善をお願いします。
- ③ **退学者減少について**、昨年度の退学者減少プロジェクトにおいて、一定の成果(R6 年度:13名→R7 年度:8名)を出されており、今年は更なる減少を期待します。
- ④ **危機管理について**、学生生活の安全を第一に考えて、玄関自動ドアの顔認証セキュリティの設置や名古屋市との連携事業(金山地区困難者対策協議会)にも加入されており、安心しました。老朽化の施設・設備の修繕や改修についての計画と実行をお願いします。
- ⑤ **中期計画・KPI について**、昨年度は過去最高の AO 入試の志願者を獲得しており、令和9年度に向けた中期計画の数値目標に対して、全項目での達成を期待しています。

II 各評価項目の改善策について

1 教育理念・目的・目標

- ① 学園の「建学の精神」が各教室に設置されており、学校の教育理念や教育モットー、アドミッションポリシーもパンフレットや HP に記載。運用ガイドラインに沿った十分なエビデンスがあり、評価3を達成。

2 教育課程・教育の実施・学習成果

- ① 学習成果を挙げるための教育が実行されていますが、運用ガイドラインの求めるエビデンスに対して一部不十分な項目があります。
- ② カリキュラムマップの作成、職業実践専門課程_別紙様式4の更新、学生個人の目標を明確にするポートフォリオの作成等の改善が必要です。
- ③ 美容師国家試験の合格率は毎年、全国平均を大きく上回る結果を挙げており、あとは中期計画の目標値である100%全員合格を期待します。

3 学生の受け入れ、学生支援

- ① 募集力が強く、毎年定員160名を大きく上回る志願者を確保できています。
- ② 多様な学生(留学生や社会人等)を受け入れ、支援する項目に関しては、学校側の目的と差異があるため、評価3の得るのは難しいですが、仕方ないと思います。
- ③ カウンセラーや相談室の設置など、学生のメンタルケアに対する改善が必要です。
- ④ 学生の内部通報相談窓口の内容をハンドブックにも掲載して周知する。

4 教育実施組織・教員

- ① 教員の年齢に偏りがあり、中長期での教員確保が必要です。
- ② 教員研修が実施されていますが、その成果の効果測定がなされていません。教員研修においても企業と連携してのPDCAが必要です。

5 教育環境

- ① 図書コーナーに美容関連の専門書の充実と図書台帳の更新が必要です。
- ② 学校安全計画の作成と提示が必要です。

6 教育活動の基盤と改善・向上の取り組み

- ① 教育内容や成果の公表はできていますが、今後の第三者評価を受けるにあたり、学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会の差別化と目的、制度の向上を期待します。

Ⅲ PDCA の A (Action) ・改善のための意見交換会

①美容実習(2年間で900時間)2年生の選択授業(150時間)の内容の理想的な比重とは。

- ・応用的な技術はサロンによって違うので、共通して役立つ道徳(人間性)の学びが必要。
- ・サロン現場を知る機会を増やす(インターンシップ、夜の練習、スタッフミーティングの見学等)。
- ・サロンはチームなので、仲間との協力や人間力を養う機会を増やす。
- ・ウィッグよりも人体モデルでの対応力やカラー実習の強化。

②新入社員が入社した際、気になる点は、どんなことか

- ・礼節を主とするコミュニケーション能力、電話対応、人間力。
- ・自己肯定感、自己表現力の低さ。もっと前向きに自信を付けさせる施策が必要。
- ・接客、マナー、言葉使い。アルバイトの経験が役立つ。
- ・道徳やマインド教育の重要性。

③退学者・離職者の改善策として、入試・採用時に辞めない学生の選び方。

- ・面接試験で質問されている隣の受験者の挙動をよく観察する。
- ・人間関係への施策として部活動のように1・2年生合同での授業(上下関係作り)。
- ・入学目的を再認識する機会を幾度と設ける。
- ・適正検査や喜働調査を企業では採用試験に実施。

Ⅳ 総評

令和8年度教育法の改正に伴い、今後の第三者評価の実施に向けて、新たな最新の運用ガイドラインでの自己点検評価を実施。学校関係者評価委員会をPDCAのA(Action)の場として改善活動に取り組み、建設的な議論の場として、それぞれの立場から改善点を意見させていただきました。国家試験や学生募集など、他校では課題となる点も名古屋美容専門学校では、問題なくクリアされており、年に2度の貴重な機会のため、改善項目に注力して時間を費やすことで、前回以上に有意義な場になったと思います。退学者や離職者の改善策は、要因のひとつである精神面の問題について、簡単に解決できる問題でもなく、学校だけでなく外部の専門家の力も借りて、PDCAを繰り返し回していただき、我々も中期計画の数値目標の達成に協力して参ります。

以上